

2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」

定時総会並びに研究発表会「岩手大会」実行委員会

2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会を、下記の要領で開催いたしますのでお知らせします。多数のご参加と研究発表をお願いいたします。

なお「砂防学会研究発表会」は、CPD（技術者継続教育）の履修実績として申請することができます（CPDに関するお問い合わせ先：砂防学会事務局 TEL：03-3222-0747）。

I. 2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」実施要領

1. 期 日 2019年5月21日(火)～23日(木)
2. 会 場 盛岡市民文化ホール（マリオス）
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 2-9-1 TEL：019-621-5101
いわて県民情報交流センター（アイーナ）
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通 1-7-1 TEL：019-606-1717
※マリオス、アイーナとも盛岡駅西口徒歩 3～4 分
意見交換会場 ホテルメトロポリタン盛岡 NEWWING メトロポリタンホール
〒020-0033 岩手県盛岡市盛岡駅北通 2-27 TEL：019-625-1211
※意見交換会場はマリオス、アイーナから徒歩 10 分
3. 日 程 下記日程表のとおり（※予定であり今後変更することがあります）

2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」スケジュール

	8:30	9:00	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	14:30	15:30	17:00	17:30	18:00	18:30	20:30
5月21日(火)	受付	企画セッション	特別講演	昼休憩	定時総会	コアタイム	口頭発表セッション				移動		意見交換会		
		ポスターセッション、企業展示、行政展示													
5月22日(水)	受付	口頭発表セッション	昼休憩	コアタイム	口頭発表セッション										
		ポスターセッション、企業展示、行政展示													
5月23日(木)	現地見学会（2コースから選択）														

- ※ 特別講演、企画セッション、行政展示および企業展示については一般公開となります。
- ※ 21日(火)、22日(水)両日ともポスターセッションコアタイム開始 10分前にマリオス小ホール（最大 350 席）においてパイプオルガンの演奏を予定しています。
演奏時間は、21日 14：20～14：30 および 22日 12：50～13：00 を予定しています。

4. 特別講演（一般公開）

講師：佐々木重光氏（元宮古地区広域行政組合岩泉消防署長）

演題：「災害に学び 災害に備える 平成 28 年台風 10 号災害の教訓から」

5. 企画セッション（一般公開）

大会初日 5月 21 日(火) 9：30～10：50 に、一般にも公開して企画セッションを開催します。

企画セッションのテーマは「豪雨による土砂災害～最近の事例から見てきた新たな取り組みの必要性」です。

コーディネーター：藤田正治（京都大学）

岩手県内においては、2016 年台風 10 号に伴う豪雨により多くの土砂災害が発生した。この台風 10 号は、気象庁が統計を取り始めて以来、初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風であった。岩泉町では要配慮者利用施設が被災し、9 名の入居者が犠牲になった。2018 年 7 月豪雨では、中国四国地方を中心に土砂災害が広域かつ多数発生し、死者、行方不明者が多数（2018 年 9 月 25 日時点で 119 名）となった。このような豪雨に起因する土砂災害に関して、これまで開催された砂防学会研究発表会では、2015 年栃木大会での企画セッション「ソフト対策の現状と課題」、2018 年鳥取大会でのテーマ別セッション「局所降雨に起因する最近の土砂災害の特徴と課

題」などが取り上げられ、土砂災害における警戒・避難に関する現状と課題についての議論が行われている。近年激甚化する豪雨災害に対して、ハード対策の整備と合わせて、降雨予測精度の向上や避難情報の周知、要配慮者利用施設の避難体制の強化等の対策が進められているが、避難勧告や避難指示発令のタイミングのズレやハザードマップの住民への周知不足等の事例が見られる。

本セッションではこれまでの議論および近年の災害の事例から、近年の豪雨による土砂災害の特徴を踏まえ、土砂災害における警戒・避難に関する現状から課題を抽出・整理し、それら課題を解決する方策について議論する。

なお、企画セッションは一般公開とします。

6. 現地研修会

A コース 定員 50 名

(岩手山周辺の横幅 240 m の火山砂防施設、火山関係広報施設等の見学コース 1 日コース)

B コース 定員 50 名

(岩泉町の土砂災害・洪水対策現場、三陸沿岸の田老・宮古の津波対策現場見学コース 1 日コース)

7. 申込方法と参加費

研究発表会、現地研修会、意見交換会等の参加申し込みにつきましては、**学会ホームページの参加申込受付システム (WEB 申込)** により行います。概要集掲載原稿の投稿を行った方も必ず参加申し込みを行って下さい。詳細は「Ⅵ.」をご覧ください。なお、「岩手大会」では会場に 1 歳以上の未就学児の一時保育室 (無料) を設置します。詳細については、「Ⅵ.」の〈一時保育について〉をご確認下さい。宿泊については各自でご手配をお願いします。

WEB 申込期間：3 月 18 日(月)(予定)～5 月 13 日(月)

参加費 (前納の場合)

- ・研究発表会参加費
 - ・一般会員 7,000 円
 - ・一般非会員 10,000 円
 - ・学生会員 3,500 円
 - ・学生非会員 5,000 円
- ・意見交換会費 6,000 円
- ・現地研修会費 (予定)

- A コース 5,000 円
(昼食代 1,000 円を含む)
- B コース 5,000 円
(昼食代 1,000 円を含む)

※現地研修会の募集定員、参加費は今後変更する可能性があります。

注：参加費は全額前納して下さい。なお、入金後に取消し等の返金はいたしません。

当日参加申込受付の場合

当日の参加申し込みの受付は学会デスクにて研究発表会および意見交換会の参加のみ受け付けます。

当日料金

- ・研究発表会参加費
 - ・一般会員 10,000 円
 - ・一般非会員 13,000 円
 - ・学生会員 5,000 円
 - ・学生非会員 6,500 円
- ・意見交換会費 7,000 円

8. 2019 年度 (公社) 砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」実行委員会

委員長 井良沢道也 (公社)砂防学会東北支部長
(岩手大学農学部教授)

副委員長 檜垣 大助 弘前大学農学生命科学部教授
 委員 伊藤 英之 岩手県立大学総合政策学部教授
 委員 平山 孝信 国土交通省東北地方整備局河川部広域水管理官
 委員 宮前 崇 林野庁東北森林管理局治山課長
 委員 久慈 敏 岩手県農林水産部森林保全課総括課長
 委員 佐野 孝 岩手県県土整備部砂防災害課総括課長
 委員 菅原 稔郎 (一社)建設コンサルタンツ協会東北支部長
 委員 村上 功 (一社)岩手県建設コンサルタント協会会長
 委員 加藤 清虎 (一社)岩手県測量設計業協会会長
 委員 安野 雅満 (株)タックエンジニアリング代表取締役
 委員 杉浦 信男 (公社)砂防学会事務局長

9. お問い合わせ先

2019 年度 (公社)砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」実行委員会事務局

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

(公社)砂防学会事務局 (担当：杉浦、大久保、若原)

TEL：03-3222-0747 FAX：03-3230-6759

Ⅱ. 2019 年度砂防学会研究発表会要領

1. 発表セッション

発表方法は、口頭発表とポスター発表です。会場の関係で口頭発表を希望されていても、ポスター発表に変更をお願いする場合があります。口頭発表セッションでは、一般セッションとテーマ別セッションを設けます。

【テーマ別セッション】

1. 地震及び火山に起因する土砂災害とその対策
 コーディネーター：山田 孝 (北海道大学)

近年、地震に起因する土砂災害が頻発しており、2008 年岩手・宮城内陸地震や 2016 年熊本地震、2018 年北海道胆振東部地震などにおいて、大規模な土砂移動現象に

よる多くの被害が発生している。地震に起因する土砂災害は、地震発生による地震動を入力として発生する第一次土砂災害と、発生後の降雨・融雪を入力として発生する第二次土砂災害に区分される。場の条件は地震動の影響を受けて変化し、地震規模によっては、その影響は数十年以上の長期間に及ぶこともある。従って、第二次土砂災害への備えでは地震によって発生した広域の土砂移動現象の迅速な把握に加え、地震動による素因の変化に対応した短期、長期の災害対策が重要となる。さらに、第一次土砂災害への対策では、想定される今後の地震規模に対応した土砂移動現象の予測が重要となる。一方、日本には、各地に活火山が数多く存在している。それらの火山には常に噴火の危険性があり、2014年御岳山、2015年口永良部島や2018年草津白根山の噴火が記憶に新しい。今後も、各地の活火山で大規模な噴火を起こす可能性あり、噴火に伴って発生する種々の形態での土砂移動現象に備えた取り組みが必要である。砂防分野では、この火山噴火に伴う土砂移動現象について古くから研究が進められてきているが、近年の観測技術・予測手法の発達や社会情勢の変化に伴い、新たな段階に入りつつある。

本セッションでは、今までの地震に起因する土砂災害およびその対策について紹介するとともに、その課題と今後の方向性について議論する。また、火山噴火に伴い発生する土砂災害に備えた緊急減災対策の実情、雨雲・火山灰雲検知のためのレーダ観測システム、融雪型火山泥流の発生予測等、最近の研究成果を共有するとともに、火山噴火に備えた土砂災害の軽減策の課題と今後の方向性について議論する。

2. 砂防分野における IT 技術の活用の現状と課題、今後の方向性について

コーディネーター：島田 徹 (国際航業株)

近年、最先端の AI (人工知能) や IoT 技術を活用して、土砂災害の検知および予測精度向上に関する技術、地形変化や土砂移動等の監視・観測に関する技術、構造物の老朽化診断等の開発が進められている。さらに、調査・測量から設計、施工、検査、維持管理、更新にいたる建設生産プロセスに ICT (情報通信技術) 等を活用する「i-construction」において、生産性を向上させるため三次元データの活用を位置づけている。

土砂災害の検知および予測精度向上に関する技術や地形変化や土砂移動等の監視・観測に関する技術は頻発する豪雨および地震や火山活動などに起因した土砂災害の発生直後や土砂移動の発生のおそれが高まったと想定される状況、天然ダムなど継続的な監視が必要な状況では、被害の拡大および二次被害の防止を目的として従来以上に求められている。さらに本技術は砂防施設の長寿命化の検討や土砂災害の初動時・緊急時の活用にも期待できる。

本セッションでは、このような最先端の技術による土砂災害の検知技術等から、データ取得に係る計測技術

(UAV 等)、蓄積された観測データ等 (ビッグデータ) の活用、ICT 技術による施工管理まで、砂防分野における IT 技術の活用の現状と課題、今後の方向性について幅広く議論する。なお、本セッションは砂防学会誌第 71 巻第 6 号 (2019 年 3 月発刊予定) の特集号のテーマである。セッションでは特集号に掲載されている論文等の筆者に話題提供頂き、参加者は学会誌の掲載内容を踏まえて意見交換頂くことで議論が深まることを期待する。

3. 土砂洪水氾濫及び流木による被害とその対策

コーディネーター：石川芳治 (アジア航測株)

2017 年九州北部豪雨 (筑後川支川赤谷川) や 2018 年 7 月豪雨 (広島県呉市天応地区) 等では、「土砂洪水氾濫」や「流木」により広範囲に被害が発生した。この「土砂洪水氾濫」は、土砂堆積による河床上昇により、土砂・洪水の氾濫が激化して甚大な被害となるもので、同様もしくは類似する災害は古くから発生しているものの、気候変動による豪雨の多発が予想される中、今後はその発生頻度が高くなる可能性がある。この形態の災害では、土石流到達点より緩勾配区間、つまり土砂災害防止法による土砂災害警戒区域より下流での被害が主体となるため、土砂災害警戒区域の設定手法による被害想定が難しい。そのため、災害事例の把握による知見の整理や、土砂移動シミュレーション等により、被害エリアや被害程度を適切に想定し、災害防止につなげることが課題となる。一方、「流木」による被害では 2017 年九州北部豪雨で約 21 万 m³ (2013 年伊豆大島災害の約 15 倍) の流木が発生し、流木衝突による建物被害や流木による橋や狭窄部 (トラブルスポット) の閉塞により、被害拡大や水・土砂の移動範囲が変化した事例が多数確認された。また、山林由来の流木が半分以上を占め、流木長や径が大きく根付のものが多く見られたことも特徴的であった。一方で、砂防堰堤による流木捕捉により流出流量の低減効果を発揮した事例や、橋脚数を減らした橋では閉塞が起こらなかった事例も確認されている。

本セッションでは、土砂洪水氾濫および流木災害の現状を踏まえ、現地調査や水理実験、数値シミュレーションなどによる検討から、その発生・流動機構並びに効果的な対策について課題と今後の方向性を議論する。

4. 北海道における継続的な土砂災害の特徴と対策への課題

コーディネーター：林 真一郎 (北海道大学)

平成 30 年北海道胆振東部地震による土砂災害 (降下火砕物)、平成 28 年十勝地方における土砂流出・洪水氾濫 (周水河地形)、層雲峡における土石流 (火山麓) 等、これまで土砂災害の発生が比較的少ないとされてきた北海道において、ここ数年のうちに甚大な被害が生じる土砂災害が頻発している。これらの災害で注目すべき点として、特徴的な地質構造において土砂移動現象が発生す

るとともに、大規模土砂生産に続いての土砂流出の懸念、繰り返し発生する土石流等、地域に継続的な影響を及ぼす可能性が高い土砂災害であることが挙げられる。また、北海道は気候変動・人口急減の影響を我が国において最も受けやすい地域と言われており、今後の土砂災害対策のあり方を議論することは、他の地域における対策を考える上でも有効と考えられる。

本セッションでは、北海道における継続的な土砂災害の素因・誘因・土砂移動現象等の特徴、気候変動・社会構造の変化を踏まえた上での対策のあり方・課題について議論する。

2. 発表者の資格

発表者は、発表申込時点および研究発表時点において砂防学会の個人の正会員か学生会員に限り（グループでの発表の場合は、発表者が会員であることが必要です）。なお、発表者とは、口頭発表では実際に会場において口頭で発表するもの（1名）を指し、ポスター発表ではコアタイムに実際に説明する者（代表者1名）を指します。原則として、発表者としての件数は口頭発表もしくはポスター発表のどちらか一件とします（発表者以外の共著者の場合はこの限りではありません）。

3. 発表内容

土石流、山崩れ、表面侵食、地すべり、地震や噴火に起因した土砂流出等の土砂災害およびそれらの防止工事、斜面緑化、森林水文、森林が土砂流出に与える影響、土砂災害減災と生態系保全、砂防の社会的評価に関するもので、原則として学会等に未発表のものに限りです。

4. 発表方法

岩手大会では、参加受付付近に PC 受付を設けます。発表の1時間前までに PC 受付にて発表データのご登録をお願いします。発表データのご登録はデータ持ち込み（USB フラッシュメモリ）に限りです。データは PowerPoint 2010～2016 で作成下さい。発表者ツール・動画・音声は使用できません。演台上にはノート PC と

マウスが置いてあります。発表者が登壇すると、オペレーターがご登録頂いたご発表データをスクリーンに映写いたしますので、演台上のノート PC をご自身で操作してご発表下さい。コピーしたデータは会期終了後、主催者側で責任を持って消去いたします。詳細は決まり次第、砂防学会ホームページ「2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」」（<https://jsece.or.jp/>）に掲載します。

5. 発表申し込み

本大会の発表申し込みは、すべて（テーマ別セッションも含む）原稿投稿システムによるオンラインで受け付けます。原稿投稿システムには、砂防学会ホームページ「2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」」（<https://jsece.or.jp/>）からアクセスできます。電子メールやはがきによる申し込みは受け付けませんので、ご注意下さい。

発表申し込みの締切りは、すべて2019年2月8日（金）とさせていただきます。

6. 概要集掲載原稿の投稿

概要集掲載原稿の投稿もすべて原稿投稿システムによるオンラインで受け付けます。下記の原稿作成要領に従って原稿を作成し、PDF形式（2MB以下）に変換して投稿して下さい。ポスターセッションによる発表についても概要集掲載が必要です。

提出期限は、2019年4月5日（金）（厳守）です。提出期限以降は受け付けられませんので、期限厳守をお願いいたします。なお、投稿を行っても参加申し込みにはなりません。参加申し込みは別途行って下さい。

7. 研究発表要領に関する問い合わせ先

〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町 8050
新潟大学農学部
権田 豊
Tel：025-262-6630 Fax：025-262-6630
E-mail：gonda@agr.niigata-u.ac.jp

Ⅲ. 砂防学会研究発表会概要集掲載原稿作成要領

本大会では概要集の印刷・配布は行いません。提出された PDF ファイルの原稿にページを付した後、砂防学会ウェブサイトに掲載します。以下の諸点に留意の上、鮮明な原稿の提出をお願いします。

1. 原稿書体

原稿は原則として MS ワード等のワープロソフトで作成して下さい。

2. 原稿用紙および文字のサイズ

用紙サイズは A4 とし、上 15 mm、下 25 mm、左 20 mm、右 10 mm を確保して下さい。

1 行の文字数および 1 ページの行数は自由とします。ただし、文字のサイズは 10 ポイント以上とします。

3. 原稿枚数

2 ページとします。1 ページあるいは 3 ページ以上は受け付けません。

4. 題名および氏名

題名は第1行目の中央に書き、1行あけて所属、発表者名（連名の場合は発表者の先頭に○印を付ける）を右側に寄せて書いて下さい。題名は本文よりやや大きめに書いて下さい。1行あけて本文を書き始めて下さい。

5. 使用する文字

使用する文字や仮名遣いは、原則として「常用漢字表」「現代仮名遣い」に従って書いて下さい。

6. 改行

改行した場合の次の行は、必ず1字あけて書き始めて下さい。

7. 文字の割付

句読点、(), :, 引用記号および1桁アラビア数字には1マスをあて、アルファベットおよび2桁以上のアラビア数字には2字で1マスをあてて下さい。

8. 見出し番号

本文の章、節等には次の記号を使用して下さい。
 章 1, 2, 3
 節 1.1, 1.2, 1.3
 節以下 1.1.1, 1.1.2, 1.1.3

9. 参考文献

内容に関係のある参考文献を最後にあげて下さい。

10. 図表・写真

図表・写真はすべてクリアにし、原則として本文の間の所定の位置に挿入して下さい。左右に余白ができたときは、その部分にも本文を記入して下さい。カラーの図および写真を使用しても構いません。ただし、学会が概要集を印刷・販売する場合には、モノクロ印刷が標準となります。

11. 原稿のPDF化と取り扱い

完成した原稿は、PDF化ソフト(例えば、Adobe Acrobat等)を用い、フォントを埋め込んだPDFファイル(2MB以下)を作成して下さい。原稿にはページ番号を入れないで下さい。なお、PDF化された原稿からそのまま概要集を作成しますので、不鮮明なものについては再提出をお願いすることがあります。ご了承下さい。

12. 原稿作成要領に関する問い合わせ

〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町 8050
 新潟大学農学部
 権田 豊
 Tel: 025-262-6630 Fax: 025-262-6630
 E-mail: gonda@agr.niigata-u.ac.jp

IV. ポスターセッション展示

ポスター発表1件あたりのポスター掲示範囲の大きさは、幅90cm、高さ180cmを予定しています。詳細は決まり次第、砂防学会ホームページ内「砂防学会研究発

表会/シンポジウム」の「2019年度(公社)砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」」(<http://www.jsecc.or.jp/indexj.html>)に掲載します。

V. 現地研修会

現地研修会は2コースあります。この機会にぜひご参加下さい。なお、申込状況により中止する場合がありますのであらかじめご了承下さい。

●Aコース

(岩手山周辺の横幅240mの火山砂防施設、火山関係広報施設等の見学コース 1日コース) 定員50名

【参加費5,000円】(内訳:バス等交通費=4,000円, 昼食代=1,000円)

5/23(木)	8:30 盛岡駅西口 → 道の駅にしね → 焼走り熔岩流 → 洞ヶ沢東沢第1砂防堰堤 → イーハトープ火山局 → 見返り峠展望台 → 小岩井農場 → 道の駅あねっこ → 小柳沢砂防堰堤 → 16:30(予定) 盛岡駅西口
---------	--

説明者として、岩手大学地域防災研究センターの土井宣夫客員教授を予定しています。

●Bコース

(岩泉町の土砂災害・洪水対策現場、三陸沿岸の田老・宮古の津波対策現場見学コース 1日コース) 定員50名
 【参加費5,000円】(内訳:バス等交通費=4,000円, 昼食代=1,000円)

5/23(木)	8:30 盛岡駅西口 → 道の駅三田貝分校 → 岩泉町砂防現場 → 岩泉町河川現場 → 道の駅いわいずみ → 道の駅たろう → 田老防潮堤現場 → 道の駅みやこ → 宮古水門現場 → 17:00(予定) 盛岡駅西口
---------	---

岩泉町内と田老防潮堤では、一部、地元語り部による説明を予定しています。

《注意事項》

1. 集合・解散場所は、両コースとも盛岡駅西口「マリオス1階正面入口前」となります。

2. 集合時間は、両コースとも8時15分です（時間厳守でお願いします）。
3. 出発時間は、両コースとも8時30分です。
4. 両コースとも行程の都合上、短時間でお食事をさせていただくため事前予約としています。なお、昼食代（1,000円）は参加費に含まれています。
5. 天候・道路・現場状況により到着予定時刻が変更になる場合があります。

※解散地点からの帰りの交通手配等については、時間に余裕を持って予約をお願いします。

6. 定員状況により、お申込みをお断りする場合がありますのであらかじめご了承下さい。
7. 申込状況により、現地研修会が中止となる場合がありますのであらかじめご了承下さい。
8. 手荷物については、各自乗車バスのトランクルームをご利用下さい。

VI. 2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会参加申し込みのご案内

1. 参加申し込み

参加・現地研修会・意見交換会等のお申し込みは、砂防学会ホームページから行って下さい（WEB申込）。WEB申込ページの入力フォーマットに従って直接入力して下さい。団体の場合も、WEB申込して下さい。見積書、請求書はホームページから出力できるようにいたします。事務処理作業の軽減のため、クレジット決済、コンビニ決済、あるいは銀行振込をご利用下さい（やむを得ない理由がある場合に限り、当日現金での支払い、後払いも受け付けます。この場合、I.7に記した当日料金となります）。

領収書は学会にて入金を確認した後にホームページから出力できるようにいたします。

受付期間は2019年3月18日(月)(予定)から2019年5月13日(月)までで、コンビニ決済並びに銀行振込の入金期限は5月17日(金)です。

<一時保育について>

1歳以上の未就学児の一時保育（無料）のご利用は5月21日(火)と22日(水)で、事前申し込みが必要です。一時

保育の申込期限は4月19日(金)です。申し込み期限以降の受付はできません。また、申込先着順で定員になり次第締め切らせて頂きますので、あらかじめご了承下さい。

一時保育に関する利用規定や申込書などは、事前申込者に対して別途ご連絡いたします。

2. 申込締切日

2019年5月13日(月)

3. 申し込み後の変更・取り消しについて

申し込み後に変更・取り消しが生じた場合は、学会事務局までご連絡下さい。

参加費・意見交換会費・現地研修会費等は、入金後は返納しませんのでその旨ご了解下さい。

4. 個人情報の取り扱いについて

お送り頂きました個人情報については、連絡のために利用させて頂くほか、申し込み頂いた「2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」」の円滑な運営のために必要な範囲内で利用します。

【申し込み・入金】

申し込みのステップ	内 容
①砂防学会ホームページ	https://jsece.or.jp 「2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会「岩手大会」」のページに、申込専用ページへのリンクが掲載されます。
②お申し込み	入力フォーマットに従って直接入力して下さい。 ※送信後、自動返信で受け付け確認が送信されます。
③見積書・請求書	参加費・意見交換会費・現地研修会費の見積書および請求書はホームページから出力できます。
④参加費・意見交換会費・現地研修会費のお支払い	クレジット決済、コンビニ決済、あるいは銀行振込をご利用下さい。銀行振込をされる場合、振込手数料は申込者負担となります。
⑤領収書および参加票	学会が入金を確認しましたら、ホームページから領収書および参加票（研究発表会、意見交換会、現地研修会）が出力できます。出力頂きました参加票は当日受付にご提示下さい。
⑥変更・取り消し	学会事務局まで連絡して下さい。 TEL：03-3222-0747 受付時間：月～金 10：00～17：00 ※入金後の返納不可

参加申込期間は2019年3月18日(月)(予定)～2019年5月13日(月)です

◆お問い合わせ先

「2019年度（公社）砂防学会定時総会並びに研究発表会」事務局

住所 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館 A 棟 3 階

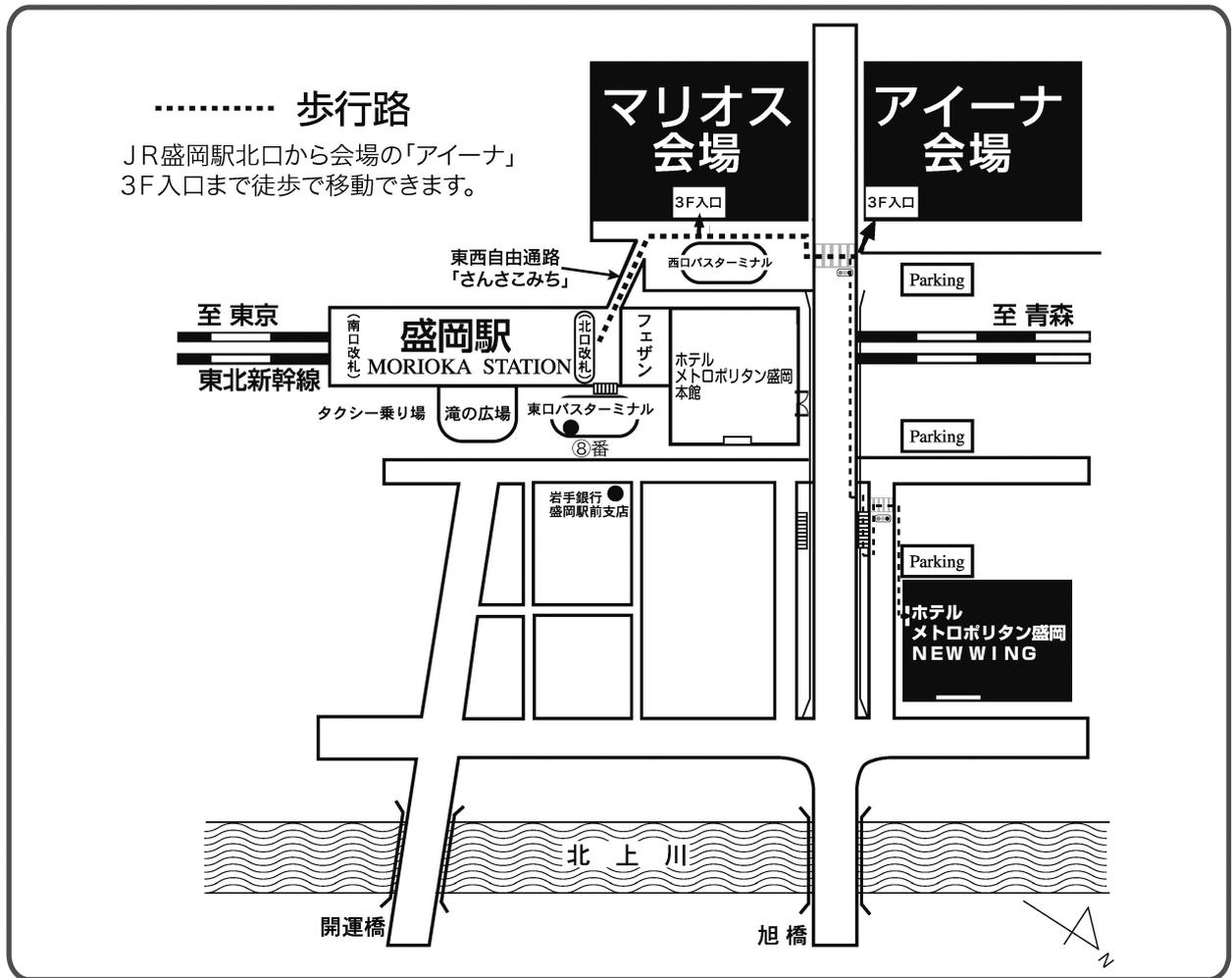
公益社団法人 砂防学会 事務局

TEL 03-3222-0747 受付時間：月～金 10：00～17：00

FAX 03-3230-6759

ホームページ <https://jsece.or.jp>

E-mail: sabo274@abox3.so-net.ne.jp



盛岡までのアクセス

東北新幹線

東京	⇔	東北新幹線「はやぶさ・こまち」	約2時間15分	⇔	盛岡
秋田	⇔	秋田新幹線「こまち」	約1時間30分	⇔	
青森	⇔	東北新幹線「はやぶさ・はやて」	約50分	⇔	
仙台	⇔	東北新幹線「はやぶさ・はやて」	約45分	⇔	

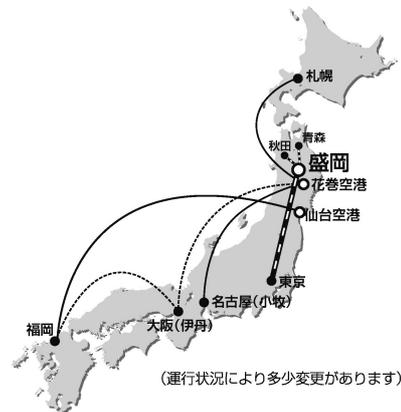
飛行機

【いわて花巻空港のご案内】

札幌	⇔	約1時間	⇔	花巻空港
大阪(伊丹)	⇔	約1時間35分	⇔	
名古屋(小牧)	⇔	約1時間25分	⇔	
福岡	⇔	約2時間15分	⇔	

【仙台空港のご案内】

大阪(伊丹)	⇔	約1時間25分	⇔	仙台空港
名古屋(中部)	⇔	約1時間15分	⇔	
福岡	⇔	約2時間10分	⇔	



- 特急バス(花巻空港線)
いわて花巻空港～盛岡駅
定期便の到着約15分後に「盛岡行き連絡バス」が出發します。
いわて花巻空港着、全便に対応して運行
●盛岡駅下車(東口バスターミナル⑧番)
●所要時間 約45分 運賃/大人1,400円
●予約の必要なし

- 仙台空港アクセス線
仙台空港～仙台駅
仙台空港アクセス鉄道は、JR東北本線と直通・相互乗入れです。
●所要時間 約25分 運賃/大人650円